

## 仙台にはどうい外国人住民がいるの？

仙台市内の在留外国人数は年々増加傾向にあります。

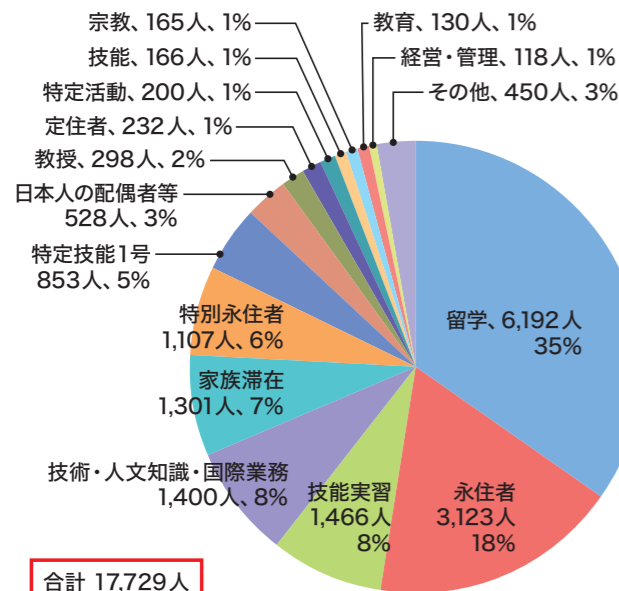
令和8年1月1日時点で、19,275人となっており、総人口に占める割合は1.8%です。

下のグラフは令和7年4月30日現在の数ですが、在留資格別に見ると、最も多いのが「留学」で、35%を占めています。

さらに、国別にみると、ネパールやベトナム籍の住民が近年急増しているほか、上位4か国が全体の60%を占めています。これらの国々は、母国語が英語ではないことが特徴として挙げられます。

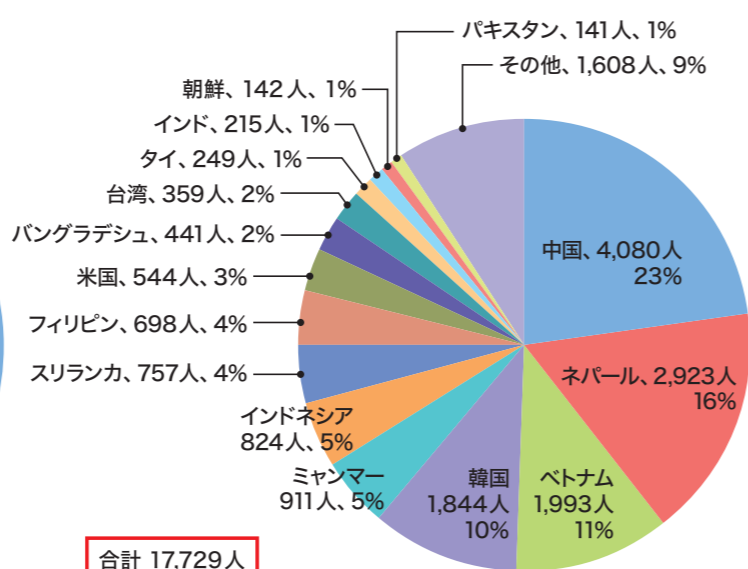
外国人住民の在留資格別人数と割合

(令和7年4月30日)



外国人住民の国籍・地域別人数と割合

(令和7年4月30日)



出典：仙台市ホームページ「仙台市の外国人住民数」

### 外国人の「在留資格」とは…

外国人が日本に滞在するための法的な許可です。

「どんな目的で日本にいるのか」「どんな活動ができるか」が決められています。

「就労が認められる在留資格（特定技能、技術・人文知識・国際業務、他）」や「身分・地位に基づく在留資格（永住者、日本人の配偶者等、他）」等があります。



### まとめ

- 外国人住民とのコミュニケーションでは、「やさしい日本語」が有効です。
- もし、生活上の課題を把握したら、関係機関へ相談してください。
- コミュニケーションを通して文化や価値観の違いを理解し合うことで、誰もが住みやすい、誰もが活躍できる地域を作ることにつながります。



**作成** 社会福祉法人仙台市社会福祉協議会 地域福祉課  
TEL 022-223-2142  
E-mail dantai@shakyo-sendai.or.jp



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



**協力** 公益財団法人仙台観光国際協会 (SenTIA) 国際化事業部  
TEL 022-268-6260  
E-mail kokusaika@sentia-sendai.jp



令和8年3月 作成

# 地域のつながり のづくり

A Leaflet for Building Community Connections

## リーフレット

～多文化共生の  
地域づくり～



このリーフレットでは、仙台市社会福祉協議会と仙台観光国際協会 (SenTIA) が、外国人住民や地域からの相談に協力して対応する中で気づいたこと、広く知っていただきたいことをまとめました。

地域で活動するみなさんが、外国人住民を高齢者や障害のある方、子どもなどと同じように「地域の一員」として理解し、誰もが安心して暮らせる地域づくりに役立てていただくことを目的としています。

### 地域の風景が、 少しずつ変わっています

近年、私たちの地域にも、さまざまな国や文化背景をもつ外国人住民が増えています。

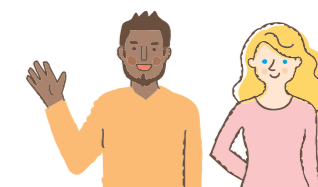
職場や学校、買い物など、日常のあらゆる場面で出会う機会も多くなりました。

言葉や習慣の違いから戸惑うこともありますが、その一方で、地域がより豊かになる可能性も広がっています。



#### ●「地域の一員」として見る

外国人住民も同じ地域で暮らす住民の一人です。国籍や言葉の違いだけで特別視せず、まずは「地域の一員」として関わるのが大切です。



#### ●日本人住民との「橋渡し役」になる

誤解やすれ違いが起きそうなとき、私たちが双方の立場を伝え合う「橋渡し役」になることで、地域の安心と信頼が保たれます。

### こんなお悩み・ご希望ありませんか？

- 外国人住民は生活上のルールを守ってくれない…？
- 自転車の乗り方が危ない…！
- 制度が分からず生活に困っているようだ…？
- どんな言葉で話しかけたらいいかな…？
- 災害が起きたときにどうしたら…？
- 外国人住民からその国の文化を学んでみたい！
- 外国人住民と交流したい！

地域住民として、  
私たちは  
何をしたら  
いいのかな…？



# 文化や言葉がちがっても、みんなこの街の住民です！

## 知っていますか？「やさしい日本語」

### やさしい日本語とは…

難しい言葉を言い換えるなど、相手に配慮した、わかりやすい日本語のこと



「やさしい日本語」は日本語が母語でない人にとって理解しやすく、安心して生活をする助けになります。また、外国人住民だけではなく、高齢者や子どもなど多くの人にとって役立つコミュニケーション手段です。

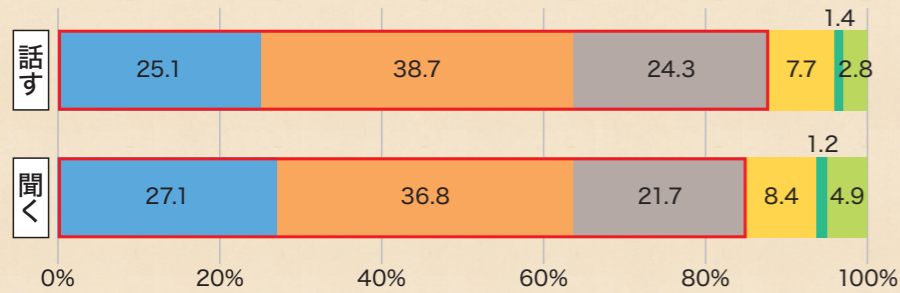
そして、多くの外国人住民が、**やさしい日本語での情報発信を希望している**とする調査結果もあります。

日本人住民と外国人住民では、文化的・宗教的な背景の違いや価値観の違いはありますが、それが日本での生活上のルールが守られないことやトラブルに直結しているわけではありません。むしろ、**知らない、分からないために課題が生じてしまう**こともあります。**正しい情報を「やさしい日本語」等で伝えることで、誰もが安心して生活することにつながります。**

### 8割以上の外国人住民が「ゆっくり・短く」なら話せる、聞けると回答

「不自由なく話せる」「生活に困らないくらい話せる」「ゆっくり短い会話が話せる」の合計 **88.1%**

「不自由なく聞ける」「生活に困らないくらい聞ける」「相手がゆっくり話してくれたら聞ける」の合計 **85.6%**



■ 不自由なく話せる/聞ける ■ 生活に困らないくらい話せる/聞ける  
■ ゆっくり短い会話が話せる/相手がゆっくり話してくれたら聞ける  
■ 単語が話せる/聞ける ■ 話せない/聞けない ■ 無回答  
出典：令和7年度「仙台市外国人住民実態調査」調査結果報告書

## コラム 1：やさしい日本語の基本ポイント

- 短い文で話す/書く（一文で伝えたいことはひとつ）
- 漢字熟語や敬語は、簡単な表現にする
- 伝えたいことは、はっきり伝える（曖昧にしない）
- 話すときはゆっくりと相手の理解を確認しながら話す
- 書くときは漢字にフリガナをつけ、単語の区切りに空白を入れる「分かち書き」をする



同じ地域の住民としてできることは？



## 「やさしい日本語」でコミュニケーション！

…言葉の壁や制度の分かりにくさから、困っていても相談できずに我慢している場合があります。まずは、相手に分かりやすい表現を心がけて、コミュニケーションを取ってみましょう！

多言語版や翻訳の提供、やさしい日本語講座の開催、講師派遣等は、仙台観光国際協会（SenTIA）へご相談ください。

## 困りごとを把握したら、関係機関につないでください！

…生活上の様々な課題を解決していくためには、地域住民に寄り添い、身近な相談相手となって日々活動されていたり、地域の状況や課題に触れる機会が多い地域活動者の皆様のご協力が不可欠です。

とはいえ、すべてを自分で解決する必要はありません。困りごとを把握したら、仙台観光国際協会（SenTIA）や、仙台市社会福祉協議会のCSW等の関係機関へつなぐ、という支援をお願いします。

## 私たちがお手伝いします！

### 仙台観光国際協会（SenTIA）国際化事業部とは…

仙台市の多文化共生のまちづくりを推進するため、地域の日本語教育、多言語による情報発信・相談対応、外国につながるこどもの支援など、さまざまな事業を展開しています。

### SenTIAによる生活課題の解決事例

多くの留学生が暮らしている地域の町内会から、ごみの分別が守られていないという相談あり。状況について聞き取りを行い、ゴミ出しのルールをイラストや外国語で説明したポスターを共同で作成。町内会が地域のゴミ集積所や掲示板に貼って周知した。

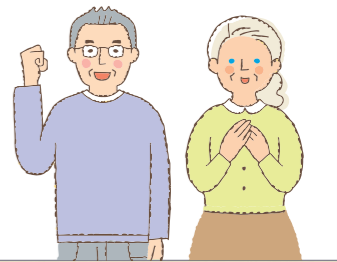


### 仙台市社会福祉協議会CSW（コミュニティソーシャルワーカー）とは…

個別の困りごとについて、地域で活動する個人や関係機関など様々な社会資源を活かし結び付けながら相談対応するとともに、地域住民とともに誰もが暮らしやすい支え合いの仕組みづくり・地域づくりに向けた支援をしています。

### 社協による生活課題の解決事例

日本人の配偶者として来日した外国人住民から、配偶者亡き後の暮らしについて、SenTIAに相談があった。その後、CSWも相談に同席して、生活課題の整理や優先順位付けを一緒に行ったり、必要な相談に同行したりして、本人の生活の道筋を立てた。



## そのほかの主な相談先は？

各区役所・支所	【仙台多文化共生センター（SenCUL）】
引越、出産や子育て、税金、年金、国民健康保険、DV等	SenTIAが運営する「仙台多文化共生センター（SenCUL）」では、生活に役立つ情報を多言語で提供しています。多言語で生活相談をすることができます。
（青葉区） 225-7211	SenCUL 265-2471
（宮城総合支所） 392-2111	
（宮城野区） 291-2111	
（若林区） 282-1111	
（太白区） 247-1111	
（秋保総合支所） 399-2111	
（泉区） 372-3111	



## コラム 2：地域で活躍する外国人住民

SenTIAには、多くの外国人住民がボランティアとして登録・活動しています。通訳として来日したばかりの外国人を支援したり、講師として学校や市民センターを訪問して子ども達に自国の文化・習慣や日本での経験を伝えたりしています。町内会やPTAの役員、福祉委員として日本人と一緒に活動する人もいます。こうした事例が増えていくことで、地域の多文化共生が進みます。

仙台市の令和7年度からの新しい取り組みとして、外国人が地域と気軽に交流できる事業が始まりました。商店街との交流では、地域の昔話を紹介した紙芝居の翻訳を留学生と一緒に手掛けたほか、地域を知ってもらうための商店街めぐりが行われました。

